

町議会とあなたを結ぶ

議会だより

しらおい、165

定例会7・9月会議号

2018年10月31日発行

産業厚生分科会 →
萩の里自然公園管理運営
協議会との懇談会 (7月19日)



←萩の里自然公園管理運営
協議会の協力で実施した
ゲンキッズ探偵団

P 2～3 町立病院改築基本方針の策定にあたっての意見書

P 4 委員会報告～広報広聴常任委員会

P 5～6 定例会報告 / 定例会9月会議の経過 / 編集後記

北海道にある、元気まち



しらおい

町立病院改築基本方針に関する調査特別委員会

町長に意見書を提出

町立病院改築基本方針に関する調査特別委員会は、10月18日、町長に対し「町立病院改築基本方針の策定にあたっての意見書」を提出した。



町立病院改築基本方針の策定にあたっての意見書

平成30年5月22日、町は「調査特別委員会の中間報告を受けて」を説明し、町立病院の方向性について、1月30日に調査特別委員会から出された中間報告の意見を真摯に受け止め、「入院機能を保持」し、「公設公営」とする旨の病院骨格に関する政策の見直しを行なった。

6月7日に特別委員会は、町の議会への検討依頼を受けて、意見の取りまとめを10月までに行い提出することを決めた。

その後、6回の特別委員会を開催し、下記のとおり11項目について調査検討した結果を取りまとめた。町はこれを重く受け止めて、病院改築基本方針の策定に反映させるよう求めるものである。

記

1 病床の確保

病床の確保にあたっては、改築後の新たな「町立病院像」を示し、長期的シミュレーションの下、将来の病床転用や複合施設の想定も行い、町民に信頼・安心される病院づくりに向けた将来展望を持った検討が必要である。

また、病床数は、包括ケアシステム、救急告示、老健施設、在宅医療などとも関連することから、全体の医療体制としての検討が必要である。

さらに、町内の医療環境や公的医療の必要性などを勘案しつつ、地域ネットワークや連携協議が必要と考える。

2 救急医療提供体制

救急告示は概ね必要であるが、救急受入体制の一層の改善を図るべきであり、救急救命士と医師、看護師と医師の連携強化、医師や看護師の配置、当直体制の情報発信や周知、消防救急体制の強化、医療設備や検査体制等の充実などが必要と考える。

また、道央道苦小牧中央インターチェンジの開設、JCHO登別病院の移築や象徴空間開設に伴う交流人口などの環境変化への対応及び広域連携の強化が必要である。

ただし、夜間救急体制が医療スタッフの負担となっている状況把握や救急告示をはずした場合、または、在宅医療の方向性などの影響も踏まえつつ、救急告示指定の是非を検討すべきである。

3 介護老人保健施設きたこぶし

きたこぶしは、介護制度の隙間を埋める重要な施設であり、地域で老後を過ごす機能や、町内に慢性期医療を確保する医療政策が求められ、その開設経緯も踏まえつつ医療政策として機能は維持すべきとの考えがある。さらに、多床室を導入するなどコスト削減の検討も必要である。

一方、ホテルコスト増などの利用者負担、採算ベースと町内の代替施設整備状況などから廃止すべきとの考えもある。

また、方針策定には、介護医療院の検討も進めるなど多方面から施設の是非を検討すべきと考える。

4 診療科目

診療科目は、政策医療としての町の考え（将来像）を明確にして、町民のために必要な科目とは何かを精査すべきである。

具体的には、医師確保策として、また適切な医療機関につなげる役割として、総合診療体制（総合医）の検討や終末医療、整形外科、眼科、耳鼻科についての検討を進めるべきと考える。

5 人工透析診療科

医師確保など運営体制構築を考慮すると導入は困難であり、町民に納得のいく説明を行いつつ、現行の無料送迎を継続すべきとの考えがある。

一方、高齢化を見据え、医師が確保できる見通しと現状分析を行い、人工透析のサテライト化（出張所）も含めて真剣に検討すべきと考える。

6 リハビリテーション

リハビリテーション機能の強化は、地域包括ケアシステムの確立のために必要であり、医師や作業療法士など技師確保を前提に、JCHOとの連携強化も視野に入れて充実を図るべきと考える。

7 三連携（予防医療）

三連携は、福祉分野が担うべきで健診率向上に向けた病院の役割や受診体制の充実、受診環境の向上に努め、福祉計画の目標達成の強化を図るべき。また、実績ある他の医療機関との広域連携で充実すべきと考える。

一方、病院が中心となって、予防医療対策としての三連携を進め、病院長は医療行政全体を指揮する。または、病院長が保健福祉センターの長となって推進すべきと考える。

8 在宅医療

地域包括ケアシステム確立を念頭に、在宅医療を支える慢性期医療の役割を明確にして充実を図るべきである。具体的には、院外ベッドの必要性の検討、福祉関連施設に対する在宅医療提供の検討、終末医療（見取り）の対応検討に取り組むべきと考える。

一方、現在の医師体制では訪問診療は難しいので、オンラインシステムの活用など、介護と医療の連携システムを充実すべきと考える。また、救急医療提供体制の業務量との関係を含めて検討すべきである。

9 医療・経営体制

更なる体制改善・経営強化を図るべきであり、医療スタッフの確保や経営の安定など、独自権限を持った病院経営体制を確立すべきと考える。そのためには、企業会計全部適用、公設民営化、総合医や経営管理の外部登用（専門家）など、新たな体制づくりの検討が必要と考える。

また、検討にあたっては、予防医療に徹する場合に国保会計への影響にも考慮しつつ、医療スタッフの意思反映を図り、一丸となって取り組んでいく体制づくりを構築すべきである。

さらに、病院支援の看護学校等と提携するなど医療スタッフの確保策の充実に努めるべきである。

10 経営・財政シミュレーション

人口減少の課題から年齢階層別の動向分析を行い、ベッド数の規模別による財政シミュレーションや病院改築による後年度負担の収支見通し（ライフサイクルコスト計算）を検討し、現状延長型と目標達成型のシミュレーションを示すべきと考える。

また、町立病院経営改善計画の見直しを行い、目標達成を図る確かな実施につなげる必要があると考える。

11 その他

議会の役割は、公設公営と有床化を前提とする方針案の行政チェック機能と政策形成機能であるから、町民や議会の意見を踏まえた町の考え方を明確に示し、それに基づいた利用環境の向上（たとえば、バス送迎など）の議論が必要と考える。同時に、病院を改築して一層の信頼と安心を得るために、更なる内部の意識改革を進めるべきと考える。一方、病院の事業推進にあたっては、十分な議論が必要であり、議論が成熟していないので、急がずに34年度建設に向けては立ち止まって議論すべきと考える。



広報広聴常任委員会

広報広聴常任委員会は、所管事務調査として、町内活動団体との懇談及び議会懇談会の開催検討、議会広報164号の編集・発行を行い、その結果を定例会9月会議で報告した。

小委員会

【議会広報研修会に参加して】

小委員会は、議会広報第164号の編集・発行、広報広聴の調査・研究及び議会懇談会に関する調査を行った。

広報広聴の調査・研究では、8月22日に札幌で開催された議会広報研修会に参加し、「議会がもっと身近になる広報紙づくりへ」の基本と編集技術を学ぶことができたものと考えられる。

毎年この時期に開催される研修会であるが、読み手を引き付けようとする、それぞれの議会広報編集の努力が見て取れる。

議事や諸活動が住民に伝わり、

「情報共有」されるまでが、議会の仕事だとするならば議会広報の役割は重要であり、編集に携わる一人一人が、こうした研修会を通し、より一層の研鑽に努めなければならないと強く感じたところである。

今回の研修会では、10町議会の広報紙のクリニックを通し、「住民が読むもの」を念頭に（わかりやすく・読みやすく）、「伝える」広報から「伝わる」広報紙のあり方を学ぶことができた。工夫しなければならぬことは沢山あるが、議会関係者協力のもと、できることから前向きに取り組むことが大切である。

「議会広報」編集の基本姿勢として、一般住民との間にある「情報格差」を考慮した企画・編集と、議会の活動を身近に感じる読者本位の編集（正確で簡潔・わかりやすい記事・正しい表記）が大切であることは基より、読者の視覚を引きつける広報編集の必要性と、読者からの意見（町民サポーター制度）が反映された議会広報のあり方についても検討が必要であると強く感じたところである。

産業厚生分科会

萩の里自然公園管理運営協議会との懇談

（7月19日）

萩の里自然公園は、平成11年に「萩の里自然公園管理運営協議会」が設立され、「地域の里山を守る」「地域の緑を宝として未来につなぐ」を趣旨として活動が進められている。

また、町内のNPO法人が中心となり、自然観察や、散策の場として活用されていることが評価され、環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている。

○課題

森林整備の人材育成・ボランティアの高齢化・後継者の育成等が課題である。近年、シカの被害がめだち、貴重な植物が食べられている。

また、貴重な植物の盗掘に苦慮している。

○意見

萩の里自然公園は、町内外から認知されている公園である。近年では、自然の中での健康志向や、植物の観察などで公園内を散策する人も増えてきており、2020年の民族象徴空間開設により、さらに公園利用者が増えると見込まれ、公園ボランティア

イアガイドのニーズが高まることが予想されるが、協議会の高齢化により対応が難しくなると思われる。このようなことから、町として、早急に公園の方向性・位置づけを明確にしていく必要がある。



定例会7・9月会議

「こんなことが決まりました」

予算

- ◎定例会7月会議
 - ▼一般会計補正予算（第4号）
- ◎定例会9月会議
 - ▼一般会計補正予算（第7号）
 - ▼国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）
 - ▼公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）
 - ▼特別養護老人ホーム事業特別会計補正予算（第1号）
 - ▼水道事業会計補正予算（第2号）

条例

- ◎定例会9月会議
 - ▼白老町附属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例の制定について

人事

- ◎定例会9月会議
 - ▼固定資産評価審査委員会委員の選任
 - ・上坊寺 博之氏（67歳・栄町）
 - ▼教育委員会の選任
 - ・熊谷 貴洋氏（49歳・大町）

発議案等

- ◎定例会9月会議
 - ▼議員の派遣承認
 - ▼常任委員会所管事務調査報告（広報広聴常任委員会）

意見書

- ◎定例会9月会議
 - ▼平成30年北海道胆振東部地震に関する意見書

報告

- ◎定例会7月会議
 - ▼専決処分の報告について（損害賠償の額の決定について）
 - ▼専決処分の報告について（損害賠償の額の決定について）
 - ▼専決処分の報告について（工事請負契約の金額の変更について）
- ◎定例会9月会議
 - ▼平成29年度白老町財政の健全化判断比率

実質赤字比率	赤字額なし
連結実質赤字比率	赤字額なし
実質公債費比率	15・6%
将来負担比率	86・0%

▼平成29年度白老町公営企業の資金不足比率

水道事業会計	資金不足額 なし
国民健康保険病院事業会計	資金不足額 なし
公共下水道事業特別会計	資金不足額 なし
港湾機能施設整備事業特別会計	資金不足額 なし

議会のいびき

定例会・委員会等

- 【7月】
 - 3日 全道議会議員研修会
 - 12日 広報広聴小委員会
 - 13日 議会運営委員会
 - 17日 病院改築基本方針に関する調査特別委員会
 - 19日 産業厚生分科会
 - 23日 議会運営委員会
- 定例会7月会議
- 【8月】
 - 7日 総務文教常任委員会

自治功労者表彰

山本 浩平議員・西田 祐子議員（議員歴15年）

北海道町村議会議長会から自治功労者表彰状が贈呈されました。この表彰は永年にわたり議員等を務め、地域の振興発展に貢献した功績が認められたものです。

表彰状の伝達は、9月21日の定例会9月会議に先立ち行われました。

前田 博之議員・本間 広朗議員（議員歴10年）

胆振管内町村議会議長会から自治功労者表彰を受けました。10年以上にわたり議員を務め、地域の振興発展に貢献した功績が認められたものです。

- 20日 議会運営委員会
病院改築基本方針に関する調査特別委員会
- 22日 総務文教常任委員会
北海道町村議会議会広報研修会
- 27日 産業厚生常任委員会
病院改築基本方針に関する調査特別委員会
- 28日 病院改築基本方針に関する調査特別委員会
- 29日 民族共生象徴空間整備促進・活性化に関する調査特別委員会
病院改築基本方針に関する調査特別委員会小委員会
- 30日 議会運営委員会
広報広聴小委員会
- 10日 議会運営委員会
- 18日 議会運営委員会
- 21日 議会運営委員会
定例会9月会議
- 26日 病院改築基本方針に関する調査特別委員会
- 【7月】
- 【8月】
 - 5日 宮城県加美町議会
 - 21日 沼田町議会

定例会の予定

■日時			
11月30日	(金)	10時	一般議案
12月3日	(月)	10時	決算審査特別委員会
4日	(火)	10時	決算審査特別委員会
5日	(水)	10時	決算審査特別委員会
			特別委員会終了後 特別委員会 の審査結果報告について
10日	(月)	10時	議案説明会
13日	(木)	10時	一般質問
14日	(金)	10時	一般質問
17日	(月)	10時	一般質問予備日
18日	(火)	10時	一般議案

■会場 役場議会議事堂

*変更になることもありますので、詳しい日程は議会事務局までお問い合わせください。 TEL 8 2 - 6 6 2 0

審議資料を配付しています

議会では、議会改革推進の取り組みとして、傍聴される方が会議の内容を理解しやすいよう、議案の貸し出しや審議資料を配付しています。
ぜひご利用ください。

定例会9月会議の経過について

9月6日(木)午前3時8分に北海道では初めてとなる震度7の大地震が発生し、41人の尊い命を奪いました。また、この胆振東部地震は、国内でも例を見ないブラックアウトと呼ばれる北海道全域の大停電となり、家庭や生産業、流通業、倉庫業、小売業などに大きな被害をもたらしました。

白老町議会では、9月11日(火)から定例会9月会議を開会する予定で、7日(金)に議案説明会を開催することにしておりましたが、延期を決定し、定例会の招集も一旦取消すこととなりました。

その後、議会では町との協議を行いながら、10日(月)に議会運営委員会、12日(水)に会派代表者会議を開催し、18日(火)の議会運営委員会において、定例会9月会議は、緊急議案のみを21日(金)の1日間として、一般質問及び決算審査等については、町が災害対応に集中するため災害対策本部が継続中は緊急案件のみを対応し、災害対策本

部解散後に調整することとしました。

議会としては、議会活動ができる体制にあり、町内の安全を確認したうえで、早期に東部3町をお見舞いに訪問しました。また、独自に町立病院改築基本方針に関する調査特別委員会を開催する等の取り組みを進めてきましたが、まだ、余震が続くなか、白老町の職員は広域応援協定に基づき全課対象として現地に派遣して災害支援活動を続けております。

よって、定例会9月会議は、緊急議案に対応した1日間でありましたが、災害対策本部が解散した後は、町との調整により速やかに平常に戻す考えでありますので、皆様のご理解をお願い申し上げます。

議長 山本浩平

編集後記

東日本大震災後、ある僧が太鼓を叩きながら慰霊の巡業をしていた時の話である。石巻のある坂に差し掛かった時、若い男女たちからこう呼びとめられたという。

「私たちの子供が乗った幼稚園のバスが津波で流され、子供たちはここで亡くなった。あなたの太鼓の音が、幼稚園の運動会のように聞こえてくる。子供も喜ぶと思うので、ここで祈り頂けないか。」
祈りの後、父母らに告げられたという。

「運動会で頑張る子供の姿を思い出した。いつも泣いていたが、子供たちに笑われると思った。今日から私たちが頑張ることに決めた。」
このたびは胆振東部地震により、厚真町、むかわ町、安平町を中心に40名を超える尊い命が失われ、土木、農林、観光業を中心に200億円を超える被害がもたらされた。白老町も震度5弱の地震に見舞われ、自宅被害や119名の避難者、建築土木、農林水産、サービス業などへの2億3000万円を超える被害が発生した。停電と地震の記憶は生々しく、執筆している今も白老町災害対策本部が

設置され、被災自治体への支援を中心に安平町、厚真町にて職員が懸命に汗を流している状況である。白老町議会も、緊急を要する議案審議を除く全ての会議を延期し、災害対応を最優先する一方、議員会を中心に議会自らも支援活動を行っている。

その一方、私たちが、前に歩いていかななくてはならない。

白老町は重要懸案が目白押しである。象徴空間開設に向けた動きは、道路、駅などに具体化され始めた。駅北再開発はいよいよ事業者募集に向かうが更なる議論が必要である。町立病院改築に対しては、適正な病床数、併設するきたこぶしの存廃、救急体制など11項目で真剣な議論を行い、このたび2本目となる意見書を町に提出するに至った。さらには財政再建と懸案課題への対応など、町の課題解決は立ちどまることを許さない。大変な今こそ、私たちの努力が試されるときである。町民各位からの御意見を頂き、議会を通してその一歩を、踏み出していく。私たちが従前に増して頑張ることに決めよう。

(10月15日 記 広地紀彰)